

# 能登半島地震被災地で支援活動に取り組む際の『医学的アドバイス』

2024年2月12日現在

作成:みえ災害ボランティア支援センター

監修:国立病院機構三重病院 谷口清州院長

※このガイドラインは被災地での感染症クラスター発生を少しでも減らすための参考にしてください

※有効期限は2週間(2月26日)までとしますが、期限を待たずに更新される場合があります

※下線部が2月12日に変更された部分です

## 医学的アドバイス

新型コロナが全国最悪の感染者数でインフルエンザも注意報レベル、胃腸炎(ノロウイルス等)も多くなっています。特に呼吸系ウイルスは無症状感染者も多いことが想定されます  
高齢な被災者は避難生活長期化で体力も低下しており、感染症が命のリスクに繋がります  
身の回りに常に感染リスクがあるつもりで、支援者は率先して「感染しない/させない」対策を徹底しましょう

特に炊き出し活動ではスタッフの体調管理と調理、配付時の不織布マスク、手洗い、換気、3密回避など感染対策を徹底してください

がれきや土砂撤去、家屋解体作業をする場合、粉塵を吸い込まないように必ず防塵マスクを着用してください

調整・事務作業の間で感染が広がっています。会議や打合せなど会話する場面でのマスク着用を徹底し、休けいや喫煙時などマスクを外す場面では必ず換気をしてください

## 活動に入る際の前提条件について(現地入りする前に)

- 現地入りする1週間前を目安に、大勢での会食や密な場への出入りはできるだけ避け、マスク・手洗いなど基本的感染対策を徹底して、被災地に感染症を持ち込まない様注意してください
- 麻しん(はしか)ワクチンの2回接種歴を確認し、もし未接種なら必ず接種してください
- インフルエンザワクチン、新型コロナワクチンも接種を推奨します
- がれき撤去などに従事する場合は破傷風ワクチンの接種歴を確認してください(有効期限10年)
- マスクや手指消毒液(アルコール消毒液、アルコールウェットティッシュ)などの感染対策用品、市販の解熱剤、ケガ等に対応できる絆創膏やシップ薬などを用意してください
- 上水道が被災している地域が多いため、水が少ない状況で使える消毒・清掃道具を準備してください
- 活動中の防寒対策(肌に密着して吸湿性の高い下着、複数枚重ね着できる上着、首や頭を冷やさない対策、はっ水性のある手袋、雪路に対応できる防水性のある靴、冬用寝袋など)を用意してください
- 出発時に少しでも体調不良(発熱、下痢、悪寒等)を自覚した場合は絶対に出発を延期してください

## それぞれの活動について

<p>「屋外(非接触)」での活動</p> <p>例)屋外にある流出土砂やがれきの撤去、農地の復旧など</p>	<p>活動前後(集合時や反省会等)や休憩中の対策を徹底してください</p> <p>粉塵や土砂中の細菌、アスベストなどを吸い込まないように、がれき撤去や家屋解体現場周辺では防塵マスクを着用してください。それ以外の軽作業でも不織布マスクは必ず付けてください</p> <p>(一財)中小建設業特別教育協会の情報を参考にしてください</p>
--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<a href="https://www.tokubetu.or.jp/asbestos.html">https://www.tokubetu.or.jp/asbestos.html</a>
「屋外(接触)」での活動 例)炊き出しや物資配布など	ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないように対策を徹底してください (一社)日本家政学会編「炊き出し衛生マニュアル」を参考にしてください <a href="https://jshe.jp/about/book.html#01">https://jshe.jp/about/book.html#01</a>
「屋内(非接触)」での活動 例)被災した家屋内での土砂撤去や家財搬出、清掃など	会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底してください
「屋内(接触)」での活動 例)訪問、声かけ、サロン、相談会、子どもの居場所、 学習支援、避難所運営支援、被災者生活支援など	ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないように対策を徹底してください 特に避難所で活動する場合は一般的な不織布マスクに加え、症状がある方に対応する場合のために個人防護具(ガウンやエプロン、保護めがね、手袋等)も準備しましょう
「調整作業」での活動 例)ボランティア活動運営支援など	会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底してください 被災者と接しない場面でも感染対策を徹底してください

## <参考情報>

### ワクチン接種について

- 子どもの頃のワクチン接種歴は母子手帳で確認する事ができます
- 接種歴が変わらない場合はかかりつけ医にご相談いただくか、または『(お住まいの都道府県)&「トラベラズワクチン」』で検索していただくと、確実にワクチン接種ができる医療機関を見つけられます

### 麻しんワクチンについて－MR(麻しん風しん混合)ワクチン、麻しんワクチン－

子ども向け情報 <https://www.wakuchin.net/vaccine/mr.html>

大人むけ情報 <https://www.wakuchin.net/for-adults/vpd/measles.html>

- 子どもの頃に定期接種している方が大半ですが、もし接種できていなかった場合は必ず接種してください(もし被災地に麻しんが広がった場合、大変重大なリスクになります)
- 接種歴がわからない場合、医療機関で抗体検査を受けること事ができます(有料)

### 破傷風ワクチンについて－4種混合ワクチン、2種混合ワクチン、破傷風トキソイド－

子ども向け情報 <https://www.wakuchin.net/vaccine/dpt-ipv.html>

大人むけ情報 <https://www.wakuchin.net/for-adults/vpd/tetanus.html>

- 子どもの頃に定期接種している方が大半ですが、接種後10年ほどで発症予防効果が無くなるので大人になってからも外傷等のリスクが高い方は定期的に任意接種を受けることが勧められます
- 特に被災地でがれき撤去や土砂の除去、搬出などに参加する方は破傷風トキソイドの接種が勧められます(有料)

### ノロウイルス対策について

ノロウイルスの感染対策ではこまめな流水手洗いが大切ですが、能登半島地震の被災地では上水道が使えない地域がまだ多く残っています。現場の状況に応じて実施可能な対策は、支援に入っている医療従事者に相談し、指示に従って活動しましょう

ノロウイルス対策の概要 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201811/3.html>

個人防護具の着脱手順 <https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/shingatainflu/cyakudatsu.html>

- 個人防護具(PPE)の使い方や吐瀉物や汚物の処理の仕方は、医療・介護従事者、または医療・介護現場の経験者から指導を受けてから取り扱しましょう

#### N95 マスクについて

エアロゾル感染への対策には N95 マスクの着用がベストですが適切に使うには訓練が必要です。一般の方は不織布マスクを隙間なく着用することを心がけるだけでも効果はあります